

放射線遮る

原発の配管点検向け

樹脂板開発

神戸・アルファ技研

産業機器製造のアルファ技研(神戸市中央区)が独自開発した、原子力発電所の配管点検に利用される放射線遮へい材が、売り上げを伸ばしている。希少重金属・タンクステン(タンクステン)の粉を混ぜた樹脂板で、有害な鉛を使わず、加工もしやすいのが特徴。国内の電力会社約10社が採用し、今後は海外向け需要も見込む。(員原加奈)

約20倍の約9000枚だ。はさみで簡単に切断できると加工しやすい。また、使用後は、原発内で焼却して残ったタンクステン粉を核燃料再処理施設に送ることも容易で、電力会社の処理負担

が軽減された。今後、世界的に原子力発電所が増加すると予測されており、関連市場も拡大する見込み。アルファ技研の古澤達雄社長(59)は「国内外へさらに販路を広げたい」と話す。将来的には、タンクステン樹脂板を電磁波の遮へいや遮音にも応用する考えだ。

放射線遮へい材の名称は「Dfシート」。原発の定期点検などの際に原子炉周囲の配管を覆って放射線を遮り、作業の安全性を高める。従来は、遮へい効果が高く安価な鉛の板が使われてきたが、人体や環境に有害として世界的に規制が強まっている。

同社は2003年から、遮へい効果が優れたタンクステンを混ぜ込んだ樹脂板の開発に本腰を入れた。07年に柔軟性が高く、ひび割れにくい製品に改良したことで販売が一気に伸びた。主な取引先は三菱重工で、08年の販売数量は前年比

鉛使わず安全、高性能に

国内電力10社が採用



訓練用の配管模型で「Dfシート」の使い勝手を確認するアルファ技研の社員。神戸市兵庫区上庄通2、三菱重工神戸造船所

がんばり
中小企業